

第16回 もにわ 茂庭の遺跡～ダムに沈んだ縄文人 10,000年の生活痕跡～（飯坂町茂庭）

福島・宮城県境に位置する摺上山（標高977m）に源を発する摺上川（全長37km）の上流に茂庭はあります。源流からわずか2kmほど下ったあたりから下流へ河成段丘が続き、その段丘上、名号から梨平・弓手原まで幅100mを超す広がりを持つ台地が広がります。ダムに沈んだ遺跡総数は26遺跡で、縄文時代の草創期（12,000年前）から晩期（約2,500年前）まで全ての時期にわたって遺物が出土しており、縄文人は10,000年にわたって住み続けてきたことがわかっています。最も古い土器は、獅子内遺跡・下ノ平D遺跡から出土したもので、草創期に位置づけられます。集落の形成を示す最も古い住居跡は早期の後半とされます。



開園時間 9:00～17:00（駐車場は8:30～17:30）
定休日 無し

- ◆体験学習施設・露出展示棟
 - ▶火曜日／年末年始（12月29日～1月3日）
 - ※火曜日が祝日の場合は、翌日以降の祝日にあたらない日
 - ※福島市公立学校の春・夏・冬季休業中は毎日閉館
- ◆休憩棟・炊事棟
 - ▶年末年始（12月29日～1月3日）
- ◆公園区域・駐車場・休憩棟内トイレ
 - ▶定休日なし

住所 〒960-8201 福島県福島市岡島字宮田78
電話 (024) 573-0015
FAX (024) 573-0016

体験学習施設 展示室観覧料
個人 一般200円／高校生以下100円
団体 一般140円／高校生以下70円
※未就学児無料 ※団体は20名から

雪深い会津の人たちにとって、冬は楽しみでもある、という話を聞いたことがあります。冬は農作業に追われることもなく、わら細工、あけび蔓などを使ったかご作り、トチを使ったこね鉢作りなど、もの作りに集中できる季節だからだそうです。囲炉裏を囲んで会話を楽しみながら、様々な工夫を凝らしていく楽しみがあるのでしょう。

縄文時代は何でも自分で作らねばならない時代でした。彼らは身近にあるものの特性を旺盛な好奇心で観察し、無数の実験を繰り返す中から、使えるものを見出してきたと考えられます。盛んに交易されたヒスイ・黒曜石・琥珀・アスファルトなども、始めはそうした観察や実験の中から見出されてきたものであったに違いありません。じょいもんでも、冬は縄文に関連したものの作りを体験するワークショップを開きます。縄文人の残した様々な工夫を学びながら、楽しいもの作りの時間を皆さんと一緒に過ごすことを心待ちにしております。

じょいもぴあ・遺跡の案内人新規会員募集

応募資格 ①ボランティアの趣旨を理解し、研修や会議、現地での活動に参加可能な18歳以上の方 ②歴史が好きで、福島のよさをPRできる方
応募方法 平成28年12月28日（水）まで（当日必着）に、文化課、各支所、学習センターに配布の申込書に必要事項を記入の上、文化課かじょいもぴあ宮畑へ持参、FAX、郵送により提出。
会費 年会費1,000円

応募者には1月に新規会員説明会、新規会員研修（計3日）を行い、全体活動に参加いただけます。詳しくは市政だより11月号あるいは支所・学習センターにおいてあるチラシをご覧ください。
また、じょいもぴあ・遺跡の案内人はじょいもぴあ宮畑で活動しています。興味のある方はぜひ、いちど見学においでください。みんなで楽しく活動してみませんか？

編集後記



じょいもぴあ宮畑 だより 第19号 平成28年11月



じょいもぴあ宮畑秋まつり開催！

平成28年9月25日（日）

抜けるような秋空のもと、今年もじょいもぴあ宮畑秋まつりが実施され、家族連れを中心に1,800人がじょいもぴあ宮畑を訪れました。
弓矢的あてや弓矢一本勝負、90cmの巨大木柱にちなんだ丸太ころがし、獲物担ぎ競争など公園を会場とした縄リンピックをはじめ、縄文時代の暮らしや文化をクイズにした縄文ウルトラクイズなどのア

トラクションや縄文ものづくり体験の勾玉づくりなどいずれも盛況で、参加者が途切れることはありませんでした。
竪穴住居や掘立柱建物、露出展示ではじょいもぴあ・遺跡の案内人による案内ガイドが行われ、竪穴住居では縄文人になり切る人もいました。鮭を使った縄文鍋の振る舞いも200人分があっという間になくなり、好評だったようです。



柱食い競争、丸太ころがし競争、縄文服の試着、縄文鍋振る舞い、弓矢的あて、トチノミ運び競争

縄文シティサミット in ふくしま

8月20日（土）、福島テルサFTホールで『縄文シティサミット in ふくしま』が開催されました。縄文サミットは、縄文都市を有する全国16の自治体が加盟する縄文都市連絡協議会のサミットです。

当日は作家の夢枕獏さんが「縄文の神話～陰陽師から見た縄文～」というテーマで記念講演を行い、動物、植物、石などあらゆるものに魂が宿る（神が宿る）という考えを、代表作の陰陽師に照らし合わせながらお話しいただきました。また、首長討論では、コーディネーターの岡村道雄さんが夢枕獏さんや参加都市の首長に「縄文人を自分の祖先だと思いませんか？」「縄文人の神はどのようなものだったでしょう？」「現代の縄文まつりを通じて新しい取り組みが生まれましたか？」などの質問を投げかけ、活発な討論が繰り広げられました。

9都市から約80名の参加者が福島を訪れ、福島市では、サミット実行委員会、じょーもぴあ・遺跡の案内人、じょーもぴあ活用推進協議会が福島市ならではのおもてなしを行い、活動紹介や福島市のPR、ボランティア同士での交流や情報交換も行われました。



第1部 夢枕獏氏講演会



第2部 首長討論



交流会・懇親会

一緒に楽しく活動してみませんか？

じょーもぴあ・遺跡の案内人新規会員募集中

じょーもぴあ・遺跡の案内人は、じょーもぴあ宮畑の案内ガイドや体験サポートを行うボランティア団体として、平成24年4月に発足しました。平成28年7月現在、53名の会員が、交代で団体来園者を中心に案内ガイドや体験学習のサポートを行っています。

宮畑縄文人の生活の様子を伝える展示室や復元された竪穴住居・掘立柱建物等のガイド活動、ワークショップや地域と一緒にイベントなどを通して、市民の

方や子供達に**縄文人の暮らしや文化**を伝えています。

また、市内の史跡や観光資源と連携した活用事業や情報発信を行い、宮畑遺跡や縄文時代の魅力、福島の歴史や文化をPRしています。

歴史と自然に囲まれたじょーもぴあ宮畑で、あなたも一緒に**楽しく活動**してみませんか？じょーもぴあ宮畑にいつでも見学に来てみてください。



じょーもぴあ宮畑夏まつり

縄文シティサミットの翌日、8月21日にはじょーもぴあ宮畑夏まつりが開催されました。

竪穴住居や露出展示、掘立柱建物の見学のほか、弓矢体験や縄文服の試着、勾玉づくりなど千人を超える来場者が縄文体験を楽しみました。



当日は縄文シティサミットの一環として、縄文都市連絡協議会の首長が、それぞれの自治体にある縄文遺跡についてその良さをアピールし、応援に駆け付けた各地の遺跡のボランティアの皆さんが会場に花を添えました。



各都市首長による縄文自慢



普天間かおりコンサート

また、普天間かおりさんのコンサート、午後の縄文太鼓祭りでは、山口笛太鼓愛好会・飯坂八幡神社祭り太鼓保存会・大旦桜鼓会の皆さんが太鼓を披露し、来園者を楽しませてくれました。



大旦桜鼓会

シリーズ展示案内 ③

じょいもんの展示室の最初の部屋は「縄文の四季」コーナーです。部屋の中央には円形のスクリーンがあり、縄文時代の四季をイメージした映像が投影されています。



中央の円形スクリーン<秋>

春には山菜、夏には魚、秋には木の实やきのこ、冬には野山の動物など、縄文時代の人々の暮らしや文化を支えた、四季折々の自然の恵みが映し出されます。また、それと連動するように、壁面にも福



壁面の3面スクリーン<秋>

島市の四季の映像が映されます。初夏の阿武隈川や小島の森周辺の紅葉、雪の中の木立など、私たちは今でも豊かな自然に囲まれていることを思い出させてくれます。



情景展示<冬>